

周辺の古墳

千人塚古墳の周辺には、須津J-第7号墳・須津J-第9号墳・須津J-第12号墳と呼ばれる3基の小型円墳が残存しています。これらの古墳は千人塚古墳とほぼ同時期の7世紀中頃に築かれた、千人塚古墳に眠る首長を補佐した人々の墓とみられ、千人塚古墳とともに富士市指定史跡となっています。



須津J-第12号墳石室全景 (東から)



須津J-第7号墳石室全景 (南東から)



須津J-第9号墳石室全景 (南西から)



千人塚古墳を中心に群集する古墳のイメージ / 復元画制作：田中さとこ

千人塚古墳の位置



千人塚古墳普及大使
須津のせんまくん
(デザイン 田中さとこ)

交通案内

- 路線バス：吉原中央駅から富士急行バスに乗り(約20分)、[須津中入口]下車、徒歩20分
- 電車：富士駅から路線バス吉原中央駅で乗り換え もしくは車で20分
新富士駅・吉原駅から車で20分
岳南電車 神谷駅から徒歩25分
- 車：東名高速愛鷹スマートICから25分(駐車場あり)



富士市指定史跡

須津 千人塚古墳



千人塚古墳の横穴式石室

静岡県東部最大級の横穴式石室

富士市神谷に存在する富士市指定史跡・千人塚古墳は7世紀中頃（飛鳥時代）に築かれた円墳で、飛鳥時代の須津古墳群における中核的な首長墓です。

発掘調査により、周囲に幅約3mの周溝がめぐる直径約21mの円墳と判明しました。埋葬施設は静岡県東部では最大級となる全長11.5m、中央幅2.05m、石室高2.35mの無袖形横穴式石室です。

石室内では礫敷きの床面に組合式箱形石棺3基と屍床1基を設け、7世紀中ごろから後半に最低4回の埋葬がおこなわれています。



閉塞石

屍床

石棺3

石棺2

開口部側の石棺と屍床（石室奥から）

※ 現在見られる千人塚古墳と須津J-第12号墳の床面の敷石は、須津地区のみなさんが2025年に須津川から運んだものです。

倭王権との結びつきを示す副葬品

石室内からは、装身具や武器、工具、馬具、銅鏡、土器など多様な遺物が出土しています。なかでも馬具や装身具などに付けられたとみられる金銅製の飾金具は、飛鳥時代の仏像の装飾と共通するデザインをとり入れた珍しいもので、飛鳥宮の倭王権と千人塚古墳の首長との深い結びつきを示す重要な資料です。



仏像の装飾と共通する文様が彫られた馬具の金具



石室から出土した須恵器と馬具

酒？を入れた須恵器



馬具

砥石

鎌

鉄鏝

弓金具

刀装具

千人塚古墳の出土品（一部）



からくさもん唐草文金具

銅鏡



千人塚古墳の墓前儀礼のイメージ / 復元画制作：田中さとこ

浮島ヶ原ラグーンの指導者

愛鷹山南麓一帯には、飛鳥時代を中心に1,000基を超える古墳が築かれており、千人塚古墳は其中でも最上位の古墳です。同時期の浮島ヶ原周辺では、渡来人を含む開拓者たちにより、広大な墓地や牛馬の放牧地、手工業の生産拠点、さらにカツオなどの海産物の加工を行う集落群が創出されました。千人塚古墳の首長は、こうした一連の地域開発に深く関与していた可能性があります。



千人塚古墳と須津古墳群

富士山信仰の祠としての再利用

千人塚古墳の石室奥壁には、山の形を模した表現の下に、釈迦如来など五体の仏名と、承応4年（1655年）の年号が刻まれています。仏名の組み合わせには富士山信仰との関係がうかがえ、これを刻んだ人物も、中里八幡宮や愛鷹神社を管理した修験寺院「多門坊」の関係者と推定されます。



石室奥壁に刻まれた仏名

阿弥陀如来 大日如来
本師釋迦如来 于時承応四未乙年六月吉日
薬師如来 多寶如来
□□造之